

第15回サントリー音楽賞
オペラ演出家の鈴木敬介氏に

第15回（昭和58年度）のサントリー音楽賞がオペラ演出家の鈴木敬介氏に贈られることが、3月1日、東京・赤坂のサントリービルで行なわれた最終選考会で決定されました。同賞は、前年度においてわが国の洋楽の発展向上に最も寄与した日本人を顕彰するもので、受賞者には賞金300万円が贈呈されます。

鈴木氏の受賞は、「ニッセイ児童文化振興財団」が日生劇場20周年記念として企画したモーツァルトの代表的なオペラ4演目の集中連続公演において、現実的な制作面と演出を担当し、これを成功させた功績によるものです。

同氏は、日生劇場創設以来スタッフとして参与し、同時にオペラ演出家として「二期会」公演における形象化を手がけてきました。とりわけモーツァルトのオペラについては、〈フィガロの結婚〉（1967年初制作）、〈コシ・ファン・トゥッテ〉（1974年）、〈後宮よりの逃走〉（1976年）、〈魔笛〉（1977年）、〈ドン・ジョヴァンニ〉（1978年）を相次いでとりあげ、その都度すぐれた成果をおさめています。今回の記念企画では、11月18日から30日までに〈後宮よりの逃走〉を除く4本を一括して集中的に上演しました。海外で活躍中の声楽家をもふくめた理想的なキャスティングを編成し、日生劇場の機能を十全に活用しつつ、それぞれの作品をその性格に即して今日のオペラとして再創造。観客に多大の感銘を与えるとともに、日本におけるすぐれたオペラ公演実現の可能性を切り拓いた点が高く評価されています。

鈴木氏は昭和9年東京生まれ。慶応大学経済学部卒業後、昭和38年に日生劇場に入社、44年から46年までベルリンドイツオペラの演出部に所属しました。現在、日生劇場企画部副部長のほか、東京芸術大学講師、洗足学園大学客員教授を務めています。

当日の記者会見で鈴木氏は「当時、公演のほかにシンポジウムの仕事なども重なって大変でした。音楽賞というよりサントリー“体力賞”という感じがします。他の方々の協力で受賞することができました」と受賞の喜びを語りました。

* * * * *

3月1日午前10時から行なわれた最終選考会には、芥川也寸志、宮沢縦一、門馬直美、吉田雅夫各氏ら9人の選考委員が出席（丹羽正明委員は欠席）。1月16日に候補者としてノミネートされた一柳慧、井上道義、海老沢敏、鈴木敬介各氏の4名を対象に、選考を開

始しました。一次選考で一柳、鈴木の両氏に絞られ、このあと更に慎重な討議を重ねた結果、鈴木敬介氏に賞を贈ることで全委員が一致し、引き続き開かれた理事会で正式に承認されました。

なお、贈賞式は5月7日（月）14時から、東京・丸の内の東京会館で行なわれる予定です。

以 上